

私の記者生活

マネジメント学科 山澤 成康

私は2年間、日本経済新聞の記者を経験した。もともとエコノミスト志望で入社したが、人材交流の一環としてまったく性格の違う職場に放り込まれた。

入社2年目だったので、経験や知識は大学生と変わらない。大蔵省（現財務省）記者クラブに所属して、毎日朝から晩まで大蔵省内をうろうろしていた。1988年から1989年にかけては消費税導入や天皇崩御など大事件が相次いだ時期で、休日もないくらい忙しかった。

新聞記事にはさまざまな種類があるが、記者会見や、統計・資料などについて記事を書くことはそれほど難しくくない。記者を長くやればルーチン・ワークである。新米記者にとってはそれでも大変だが、ベテラン記者は会見が終わって10分程度で記事を仕上げってしまう。

価値が高いのは、「特ダネ」だ。ほかの新聞社が入手していない情報を記事にするもので、記者は

日々「特ダネ」を探して歩いているといっても過言ではない。誰も知らないことを記事にするのは記者冥利につきる。記事の扱いも大きくなる。逆に他社が抜いた「特ダネ」を後追いつた場合は、記事が小さくなる。

記者をやっても名文が書けるようにはならないが、簡潔な文章は書けるようになる。コツは2つだけだ。①書く前に見出しを考えること②大事なことから書くこと——である。新聞記事は、レイアウトの関係で記事が短くなっても困らないように、重要なことから順番に書くことになっている。大切なことは最初の10行にすべて織り込む。これを守るだけでもわかりやすい文章が書けるようになる。

新聞記者はおもしろい職業だが、客観的に報道しようとするほど自分の意見が言えなくなる。また、いろいろな人の意見を聞くことはできるが、自分が専門家になれるわけではない。研究者になって最もよかったと思うのは、自分の興味のおもむくままに研究ができ、しかもそれを自分の名前で発表できる点である。



翻ってみると、新聞で思いだすのは、小学生時代の夏休み

の宿題で新聞記事を題材にしたこと、高校生時代に選挙に興味を持ち、総選挙の前後に新聞で、その予想と結果を比較したことくらいだ。いつもは、漫然と一面の見出しとテレビ欄とスポーツ記事を見るだけであった。その後、勤め始めて、先輩達が「日経では〇〇は□□とあった」との話聞いて、新聞をちゃんと読まないとまずいなと思いはじめてから、新聞全体を眺め始めた次第である。でもその頃はまだ十分には読んではいない。

3年前に初めて教職につき、担当講義はビビッドなテーマであることが決まった時に、その情報源を何にするか迷った。学生たちの興味ある対象分野や理解の程度が解らず、まずはテーマに沿って「今」が何かをそのまま知らせることが良いとの判断から、新聞を教材にしたわけだ。

「今」を教える立場で新聞を読むと、新聞記事の表現は奥が深い。限られた面積の中で表現するため、文章は焦点を絞り非常に歯切れがよく、同時に「事実」と「近未来」が同居した表現で、図表・写真が効果的に使われているため、記事内容は各人各様に十分理解できると思える。この「近未来」の味をどう感じとるかが読者の感性かもしれない。私にとって新聞は極めてありがたい情報源である。

「今」を切り取る 鮮度の高い情報源

マネジメント学科 大野 二朗

担当講義は「ベンチャー」、「地域活性化」などが主題で、いずれも鮮度の高い情報が重要だ。変化の激しい今日、企業の栄枯盛衰は常ならず、その成功・失敗要因は刻々と変化する。また戦後60年、日本人口は成長ピークをまぢかに控え、旧来の増加を前提とする社会システムは変革が求められている。この目まぐるしい様々な様相の「今」を克明に知らせてくれる情報源が新聞だ。

私には本や雑誌は「知る」ための情報源、新聞は「知る」とともに「考える」ための情報源だ。経済誌の記事は一定の纏まりがあり面白いが、近過去の印象が強い。一方、新聞記事はある事象の現在進行形を生々しく語り、かつ時には誤報もまじえて、「今」を綴っており、誰も知らない近未来を切り取る手段とし機能していると思えるからだ。新聞はその紙面で、同時に多様な事柄を並列して表示し、記事の位置取りでの重み付けはあるものの、読者が自分の視点からその重要性を選択できることも評価出来る点だ。もっともスポーツ新聞のように、これでもか！と極めて押し付けがましいものもあるが・・・。

[kæ̃nəpi]

キャノピー

跡見学園女子大学図書館報 2005年3月15日No.36

発行：跡見学園女子大学図書館 〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL:048-478-3864 FAX:048-478-3746

特集 新たなる新聞

皆さんは新聞をいつもどのように読んでいますか。日々の出来事を知るため？ 就職活動に役立てるため？ 新聞は今も昔も情報の宝庫。今号では先生方に新聞について様々な角度からご投稿頂きました。毎日手に取る新聞とは異なる新たなる一面を発見してください。



CONTENTS

特集：新たなる新聞

私の記者生活……………	山澤 成康	2
「今」を切り取る鮮度の高い情報源 ……	大野 二郎	2
新聞の切り抜きから……………	遠藤 潤一	3
『大陸新報』のこと ……	池上 貞子	3
クロアチア研究と新聞の役割……………	石田 信一	4
原紙からマイクロまで……………		4
本学図書館所蔵の新聞から……………		5

専門図書館探訪 新聞ライブラリー…………… 6

図書館の思い出
遙かなるクリスマス…………… 中島 宏 6

図書館から借りて読んだ本・
図書館から借りて読んで欲しい本 …… 7
専門書から、漫画まで 藤代知子／「13歳のハローワーク」 下大沢葉子／「森と氷河と鯨」 金子裕美
学生の頃読んだ本：『弓と禅』 …… 阿部 洋子 8

FLASH ACCESS…………… 8